



仕 様 書

玄々化学工業株式会社

◇ 品名／品番

もくぬ〜る 水性床用2液ウレタン ／ 主 剤 ： SC-46

硬化剤 ： SB-16

◇ 特 長

- ① 溶剤系塗料に匹敵する光沢性を有します。
- ② 耐摩耗性、耐ヒールマーク性に優れます。
- ③ 透明性に優れます。
- ④ 適度なノンスリップ性と弾力性で滑りにくく、足への負担が少ない。
- ⑤ 水性塗料のため低臭気、不燃性かつ引火の危険性がありません。

＜安全性＞

- ・ホルムアルデヒド放散等級／F☆☆☆☆〔(一社)日本塗料工業会登録 登録番号 G01413 〕
 - ・学校環境衛生基準 適合
 - ・厚生労働省が濃度指針値を定める 14 物質不使用
 - ・鉛・水銀・カドミウム・六価クロム等の有害金属類 不使用
 - ・食品、添加物等の規格基準 第三 器具及び容器包装 準用試験 適合
- ※本規格基準適合のみでは、食品用器具及び容器包装(直接食品と接する場所)へは使用できません。

◇ 用途

屋内木製品全般(体育館、スポーツジムなど強度が求められるフローリング)

◇ 塗装方法

刷毛、コーティングモップ、アブリケーター

◇ 標準塗布量 (条件によって異なりますので目安として下さい。)

80～100g/m²(1 回塗りあたり)

◇ 標準配合比 及び、可使時間、乾燥時間 (条件によって異なりますので目安として下さい。)

		10℃	20℃	30℃
主 剤	SC-46	100	100	100
硬化剤	SB-16	20	20	20
うすめ液	水	0～10	0～10	0～10
可使時間		8時間	8時間	6時間
乾燥時間 (標準値)	指触	40～50分	20～30分	10～20分
	指圧	8時間以上	8時間以上	4時間以上
	硬化	48時間以上	24時間以上	16時間以上

※主剤に硬化剤を混合後、可使時間を過ぎた塗料は使用しないで下さい。

高温時(液温が高い場合)は可使時間が短くなるので注意して下さい。

◇ 塗料性状（一般性状値であり、規格値ではありません。ロットごとに異なる場合があります。）

項 目	方 法	結 果	
		主 剤	硬化剤
外観(液色)	目 視	乳黄色	無色
粘度(液温 25℃)	粘度カップ (IHS-NK2)	16±2 秒	11±2 秒
光沢(グロス) *1	グロス計 (IG-320)	90 以上	

*1…素材の吸い込みや塗布量によって異なることがあります。

◇ 塗膜物性（結果は実測値であり保証値ではありません。）

項 目		条 件	結 果
密 着 性 (碁盤目試験)	木 地	スギ、ツガ、ゴム、パイン、ナラ、セン、カバ、マツ(ヤニのない部分)	異常なし
	下塗り塗料 (層間)	水性床用 1 液ウレタン「SC-40」	異常なし
鉛筆硬度		三菱鉛筆ユニ 荷重 750±10g	HB
耐 水 性		精製水 6 時間後、拭き取り	異常なし
耐湿熱性		塗面に沸騰水を掛け、 その上に沸騰水入りビーカーを 20 分静置	異常なし
耐薬品性	アルカリ	1%炭酸ナトリウム水溶液 6 時間後、水拭き	異常なし
	酸	5%酢酸水溶液 6 時間後、水拭き	
	アルコール	60%エタノール水溶液 6 時間後、水拭き	異常あり
耐汚染性	赤インク	4 時間後、拭き取り洗浄	異常あり
	青インク		
	黒マジック		異常なし
	赤クレヨン		
	しょうゆ		
	ソース		
	ケチャップ		
	紅 茶		
	コーヒー		
	台所用洗剤		
耐衝撃性		デュポン衝撃試験器 撃ち型:1/2 インチ 荷重:300g 高さ:30 cm	異常なし
滑り抵抗係数(CSR)		JIS A1454(高分子系張り床材試験方法) ゴムシート:硬さ A72~80 「清掃・乾燥状態」	0.58

◇ 標準塗装工程

適用範囲：屋内木部床材全般(未塗装の場合)

仕 様：水性 透明 ツヤあり仕上げ

工 程		使用材料／配合比(重量比)	塗装方法	塗布量(1回)	乾燥時間(20℃)
1	素地調整	サンドペーパー P180～P240 (または、ドラムサンダー P40～P100 及び、ポリッシャー P120～P150 で研磨。 全面平滑後、除塵。)			
2	下塗り	水性床用 2 液ウレタン 主剤「SC-46」 100 硬化剤「SB-16」 20 水 0～10	刷毛 コーティング モップ アプリーケーター	80～100g/㎡	8 時間以上
3	研 磨	サンドペーパー P320～P400(または、ポリッシャー P100～P120 で研磨。全面平滑後、除塵。)			
4	中塗り	水性床用 2 液ウレタン 主剤「SC-46」 100 硬化剤「SB-16」 20 水 0～10	刷毛 コーティング モップ アプリーケーター	80～100g/㎡	8 時間以上
5	研 磨	サンドペーパー P320～P400(または、ポリッシャー P120～P180 で研磨。全面平滑後、除塵。)			
6	上塗り①	水性床用 2 液ウレタン 主剤「SC-46」 100 硬化剤「SB-16」 20 水 0～10	刷毛 コーティング モップ アプリーケーター	80～100g/㎡	24 時間以上 (次工程： 8 時間以上)
7	研 磨	サンドペーパー P320～P400(または、ポリッシャー P120～P180 で研磨。全面平滑後、除塵。)			
8	上塗り②	水性床用 2 液ウレタン 主剤「SC-46」 100 硬化剤「SB-16」 20 水 0～10	刷毛 コーティング モップ アプリーケーター	80～100g/㎡	24 時間以上

※高耐久性が求められる体育館、スポーツフロアなどには 4 回目の塗装(工程：7～8)を行って下さい。

※体育館などのスポーツ施設で使用する場合には、上塗り塗装後 1 週間以上の養生をして下さい。

※攪拌はハンドミキサーなどによる機械攪拌を行って下さい。必ず主剤を攪拌しながら硬化剤を少量ずつ添加し、均一に混ぜて泡の巻き込みがないよう注意して下さい。硬化剤を混合した塗料は濾過して泡を取り除いて下さい。

※塗装前に汚れや付着物、旧塗膜は除去して下さい。旧塗膜が残っている場合、密着が悪くなる事があります。

※条件によって塗布量、乾燥時間は変わりますので目安として下さい。

※塗装時は発泡に注意して下さい。刷毛塗りには水性塗料用の刷毛(ナイロン刷毛など)を使用して下さい。

◇ 注意事項

- 塗装時に使用した道具は中性洗剤などでよく洗浄して下さい。
- 初めて本製品をご使用される場合には、必ず目立たない場所で試し塗りを行って下さい。
- 他社製品との併用についても同様に試し塗りを行って下さい。併用での不具合については、一切の責任を負いかねますのでご了承下さい。
- 本来の用途以外には使用しないで下さい。

- 塗料の貯蔵は5℃以上、35℃以下で保存して下さい。
- 塗料使用後は必ず密栓をし、冷暗所（凍結しない場所）に保管して下さい。
- 本製品は水性塗料なので0℃以下の場所での保管を避け、凍結させないように注意して下さい。凍結すると解凍しても正常な状態に戻らず、塗膜性能が低下する可能性があります。
- 使用前には塗料を十分攪拌してから使用して下さい。
- 塗布量および乾燥時間は、素材の種類や気温・湿度などにより異なるので目安として下さい。
- 塗布量が多過ぎると乾燥が著しく遅くなり、ツヤムラ・乾燥不良の原因になりますので注意して下さい。また、塗布量が少な過ぎると塗料の性能を十分に発揮することができない場合があります。
- 塗装前に、素材の汚れ、ヤニ、ワックスなどを除去してから塗装して下さい。
- 旧塗膜を十分に取り除いて下さい。他の塗料が既に塗装してある面には必ず試し塗りして下さい。
- 5℃以下での使用は避けて下さい。また、雨、雪の日や湿度が80％以上の日は塗装を避けて下さい。（乾燥時間が著しく遅くなります。）
- 木材の乾燥が不十分な場合、塗膜の性能を十分に発揮することができない為、木材の含水率を20％以下に調整してから塗装して下さい。
- 南洋材系堅木などの硬質材は高密度であり、塗料が浸透しにくい為、塗装の際は注意して下さい。
- 下地が十分に乾燥していない状態で塗装した場合、仕上がりに影響が出る可能性があります。また、塗装後も同様に水などの影響が考えられる場合は注意して下さい。
- どのような場合でも換気に十分注意して下さい。
- 使用中は手袋などをして皮膚に付かないようにして下さい。
- 使用後は手洗い（うがい）をして下さい。
- 子供の手の届かない所に保存し、誤飲、誤食しないように注意して下さい。
- 植物や動物に掛からないように注意して下さい。
- 製品の取り扱い中はできるだけ皮膚に触れないようにし、必要に応じて有機ガス用防毒マスク、または送気マスク、保護手袋、前掛けなどを着用して下さい。
- 飲まないで下さい。もし、誤って飲み込んだ場合には、直ちに医師の処置を受けて下さい。
- 目に入らないように注意して下さい。目に入った場合には直ちに大量の水で洗い、医師の処置を受けて下さい。
- 皮膚に付いた場合には石鹸で水洗いをして下さい。
- 容器からこぼれた場合には砂などを散布した後に処理して下さい。
- 火災の場合は、消火に炭酸ガス、泡または粉末消火器を使用して下さい。
- 中身を使い切ってから廃棄して下さい。
- 使用前には容器（ラベル）、カタログ、見本帳などの取り扱い注意事項を必ず読み厳守して下さい。
- 製品の取り扱いに当たっては、安全データシート（SDS）に従って下さい。
- 製品は性能の改善の為に予告無く仕様を変更することがあります。

◇ 廃棄方法

- 各自治体の廃棄物処理条例に準じて廃棄して下さい。
- 水路や下水道には流さないで下さい。